定紋花輪違
雷神丸剣電

桜川慈悲成作
[illegible]

全

207
808

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

序

久しき流てん流るゝ天。行丈短くしゐ言葉足らぬ。御伽の
の即席茶番趣向を耳にとりて鼻輪遠ひ老つも
今様なるもの只一作稚き記しくひ出しを
永寿堂主人も年ごと山王は桜の木にうへ植く
てふと申の初春新板と成るし其猿の面は赤ら
さ猪七チヨイと述れ例の二本足らね戯作者も
影ふ此おんさら短き蛋の寿禄久しいのとそん非の
御江戸の名題堺町具しひまりくゝお笑ひ御くに
照の下ぬチトきぬうちクツくゝ。

壬申の孟春

芝櫻川慈悲成

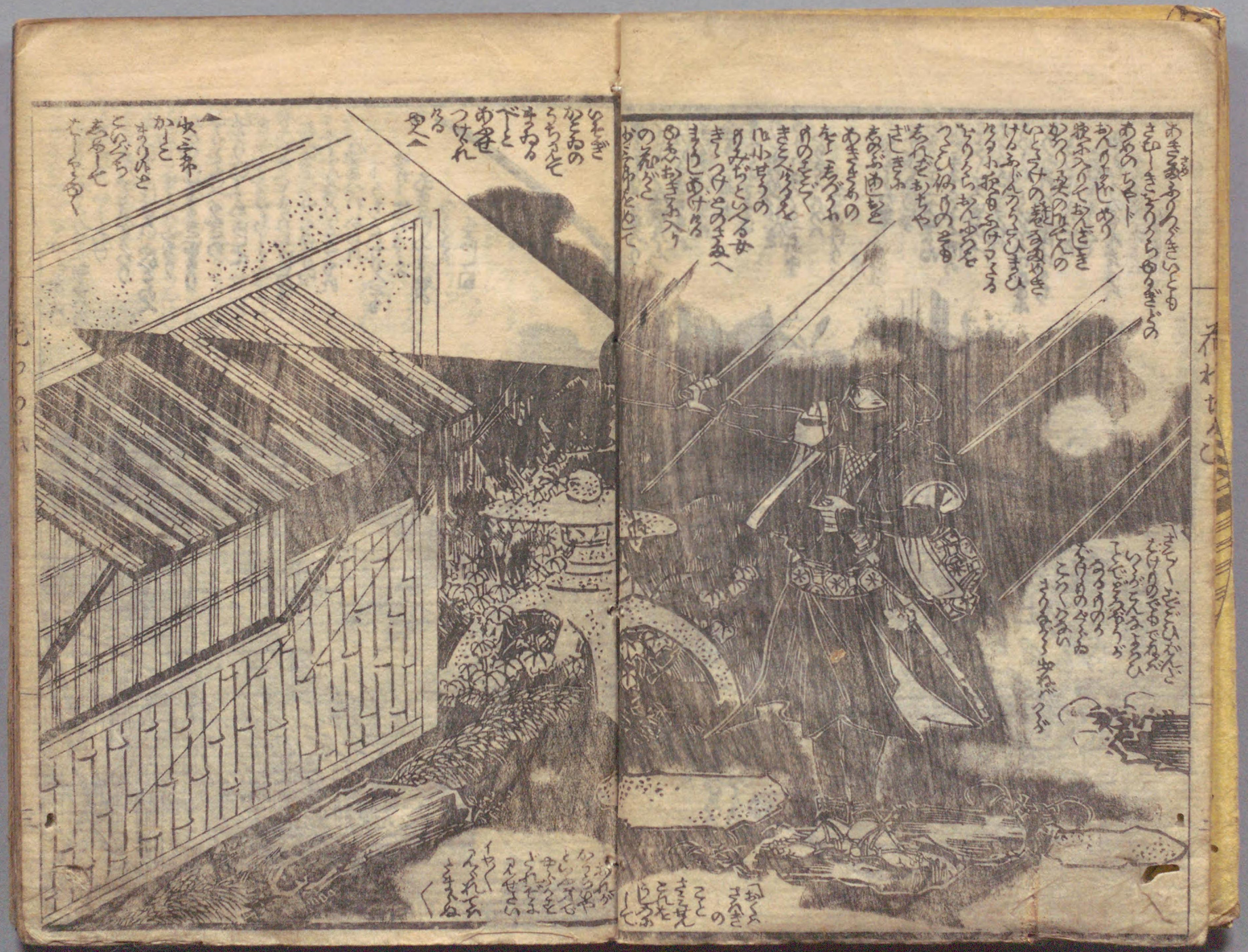
おきぬのみ
翠簾を
席屋に
影うつし
あらね
繪合
花の袂や

きぬの
えん
まく
ぬる
すゝや
柳
花
宴

徃古人
鶏冠井氏
令富

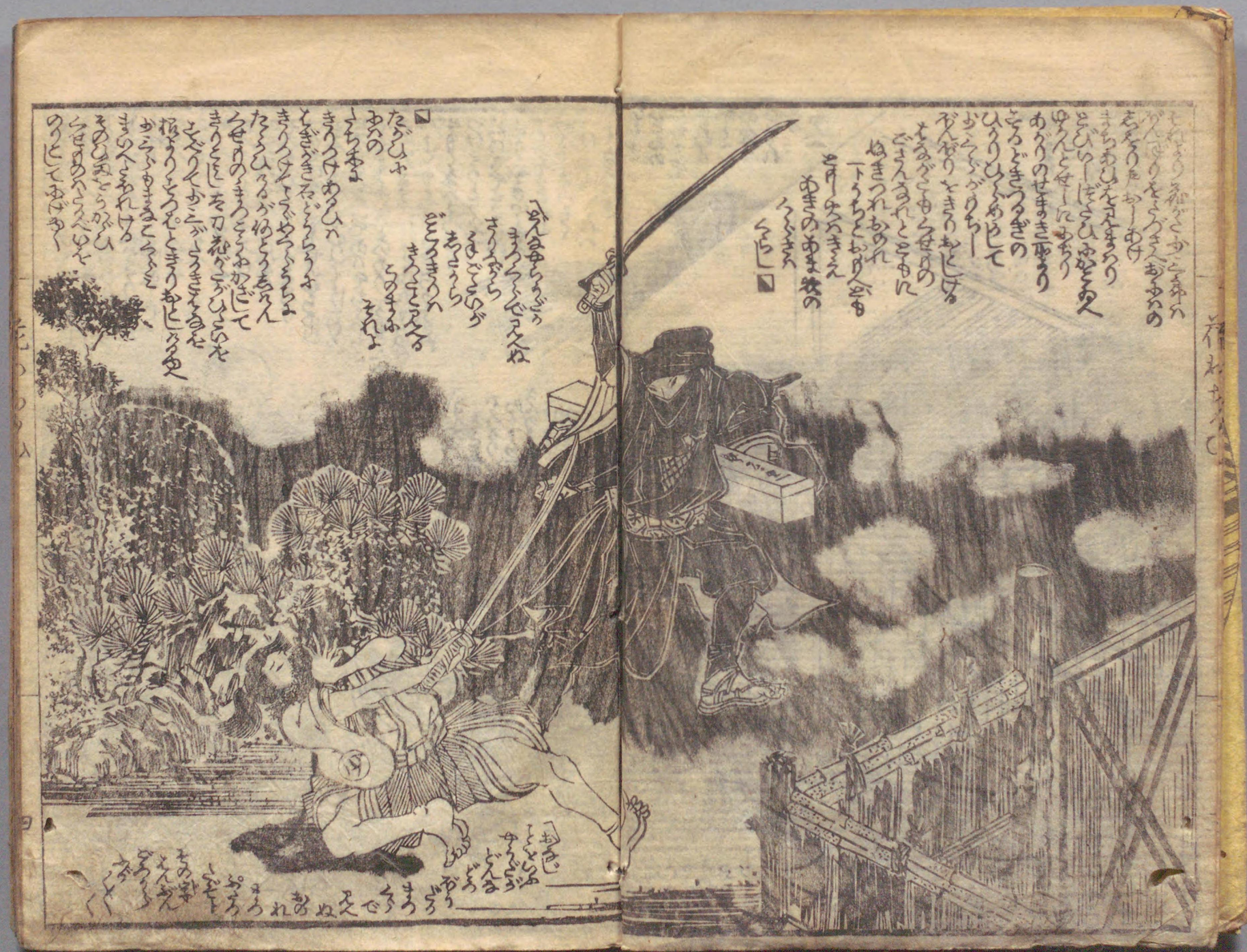
国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用



国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用



国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

つゞき　かくして第一つまのかゝ
せんとてなかなかさはしくせしが
たちまちさとりておとしうづき
下くちびるをかむ。ヲヽコハ
ふしぎや手ひさしく
あいさるべきぐさく
下女うらんしやうの方の
ひたかるぞかり
これへふしぎと
ふらぬのよろこび
佐次兵衛も
あきれゐたる
ありさまなり
あゝや決ある志んの
あらがれしたるなり
あげてその有さまかかり
きうきさんさんげかつこと
めつせざるも人のちから
用かなうぞやかしく
むくいじやうちうちあて
よろくきみ我早稲への
そのむかし家まつしく
ありて二人のせがれをやうひくも
すのくわまやてらがひんかせあくれ
その目をかゝるくわぜてん

おきつまりある故の
ものゝてくまぎれか
ゆうぎの家の
おちやさきまま
ものびるみ
ての
一ぢくを
ねそこう
ぬすみうち
かくりそれを
五十両の
あちりつゝ
あづけその
五十両を
りくまくば
あへとかそうかし
おろしその内せいちなう
ゑしろ佐次兵衛かつちものゝ
まさく家さんおやうかありまちまつの一ちくも
かりかどしらへなふくひとおかけへかかまでまれ
いちぞくのさうぞく一つしならふ一子どのぞあがらうもあやません
のがれぬ天のあとそれと今あたりおやのめくじを身にひきうけし佐次兵衛が
孝あたるなさけならぬのうんきのきうさをとくあいくきくはれなつぶ知ぬおどろき
かようとひへ武段あり四十年ひさくされあかなおふくらし今の此年との世話のとり
おしかなむとてうぞくのかひらうてたかふにあたりそへ入まさせか今さんなく青付まで

次へつゞく

童子必用中本小冊目録

江戸名所方角書　江戸方角獨案内　大字江戸往来
世話字往来教草　道中往来備仕種　手紙今川准状
諸職往来　商民職人往来　庭訓書ちらし
隅田川往来　下ぎり小ぎ以本　御家流 □用文章
ぢんてき問答　福ざ川おもよ　伊勢物のさ
分類方用字尽　古状揃 九九れいう 平かなつき　小笠原おんけさ
女今川梅花文庫　童子節用集　和漢名数注集
本朝画象系図印譜　新刀古刀名鍛録尽 おもんな 價付入　元文師御園抄
御家流 諸氏 手紙文　手本向 通用　文通返用 百十四ケ条入　十返舎一九案文　絵東松羅堂
懐中案紙　手紙御紙法(?)入 名紙組冊(?)　おもて一ぱい　さいしき

つゞき　渡翁のうちへぬけへ
きたがらすりんどかきくて
わるりさしくもどろうきとりよれ
てろおうこゐあけさそくの節を
ちらてうひろべざんねんにおもふやくんとぞんじ
国みじぞりのをあざのそことひそゐねをと渡翁うち
千の年月のうまれその男のいき血をのますゐ附ゐますまき
あきてるとまてとうちおいふるまひしうそとちやの内に
られおきてるべ我いき血とひおわくかざいきてくそう
とれゐふやくべたのがひまされはゞらんおまれ

○それより花ぐるま
かの一すぢくを
ゆうきおくだきん
ある一と一月の
うえぎ佐兵衛
おや子のふうき
くろうをおんおぐり
まうしあけるとの
武士かくちくくりて
うちぬめでたく
めぐたる女のまえを
むうえけり

芝櫻川慈悲成戯作

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

三馬門人 春亭三暁作

雷神丸劔電

鳴神五郎兵衛
三浦屋玉菊

全部三冊

浮世繪師 小川美丸画

雷神丸劔電序

彼川柳點に。雷の鳴る時そうも様と付けゝる。宜なるかな用ゐある時ぞうり来て先生くことたてゝるゝ。戯作者の門人なり。かれに春亭三暁在下坂。教帳とも線香とも。且観音経とも。かたいそ雷神丸の稗史を編しかれど。名に似ども。名作といふ程にもあらねど。劔雷の初と呼る。作者に於てハチト剛さうなれ鈍欽ぎうたく内に白雨のあがりめも速かるべく。名ハ世に高く鳴神五郎兵衛。諸が来たらべ大あたりハ。鉄炮雨の震動雷電先さるる無が趣向の三冊。看官お勝の要心あらんとも。臍を労塞のひそ。例の毫豆節分お豆に換て。序の半張の出来ぐらましへ。伏て面をことゝぴり。

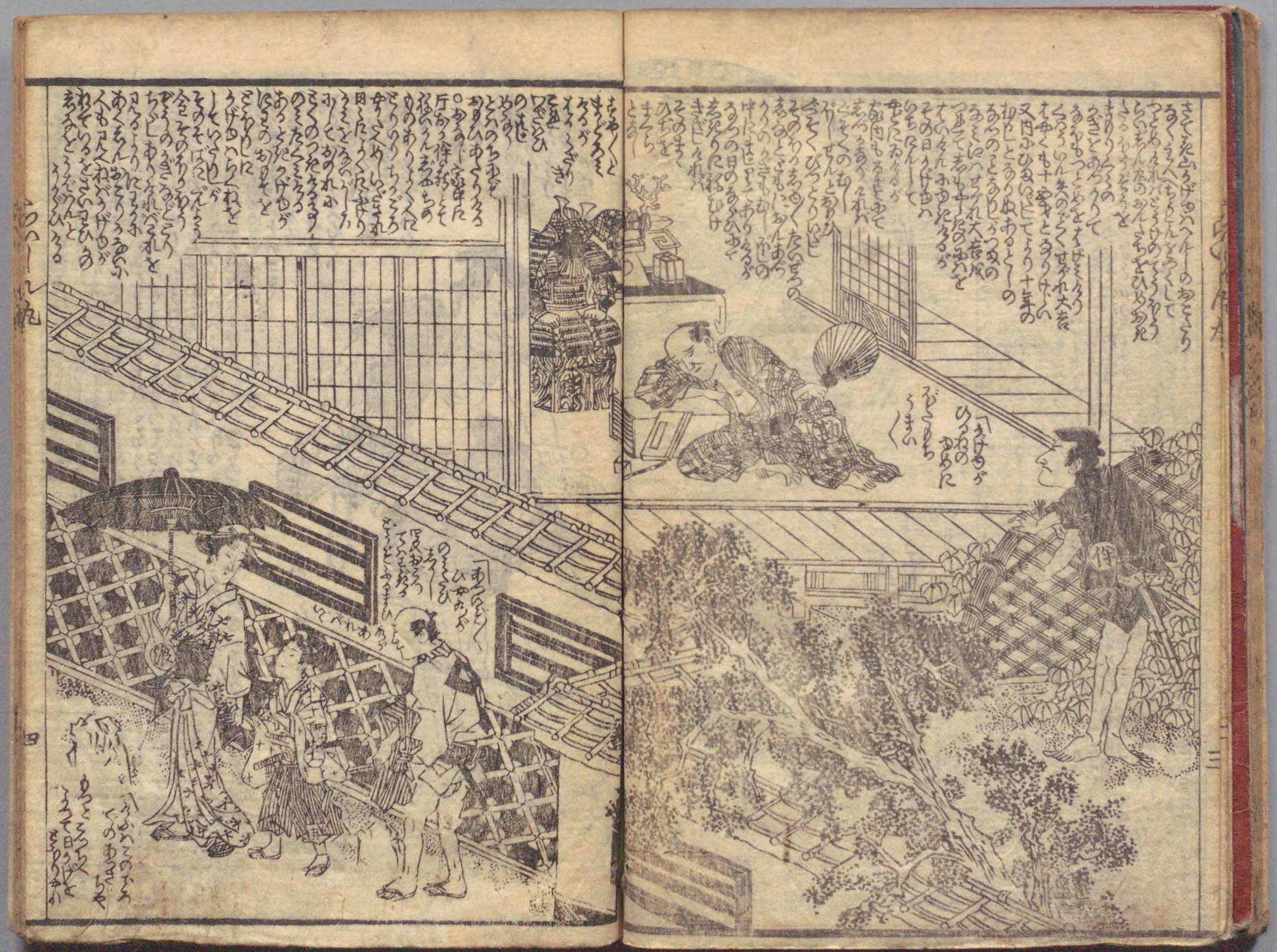
本町延壽丹薬店にゐて 式亭三馬戯叙

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808
ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808
ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用



国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

つゞき　ころのころのれバあづいをとうりろつけんとせしがうかゞひろ見ればそれうろふこゝろの中うちてまうるくよろこびいきつけをわらへよびのけ一きりまうのこゝをほつとひきくろうしたのちをほつとつきさらしのことをうちものさてくむねんやはさてやことに今日ぞくびとのむしせしにまきうれわがくおぶくし中家さわくとまじろくするあく行くわう侍者それがのつさるまたそうつぶひ軍用金二百両わうそうのうぎくおろともうゆひとらく立さるところをそれが一にふとゆがめられさてくさるぬれうちにきりうくまのをぬく刀もあうされバさやのまゝにてあしらひしにつひふつまをおひされバたよりろくべしゆうものしどうろのまゝさにさうのとせうとしそのろくちう一人のさうのんとまさるとしそのいふとよしよろうやようつわんといひ人どもせうれ大吉よくきくせしそれのものぞも侍者のてらひろうりむろのくおりあべはぞやらうろもあうるせしさりうるのぞうをよせのをあせいてうるゝの　ゑうをとゝ死侍者おをせくふくてゆゝづり　まづれひしゝをれゝ死ももそのく大吉がにせうふそぞそてゆけるのいゞうの死中をのよりくひのふ百両そいまうさるのいぜんぞとのひかくとそもわるとゆやきれあをあく死八ぞえにゆく

さくまうらげちがかりのゆうへりいでゝろうのことあうやあげられバえんしのゆゝれんきうらげあうがいへをおゞあんじつのの八金二百両をそくのうぞいのうぎろうとたへ侍者とめひそうくつかりのきバをのうちゑうそうでそれおさゝあるらいじん丸のおんさまふんどしもその侍者のあうゑうのとちくらゆちふあれ金ハうげちがあづへそとゝくれうぐけしれねどうくあらのせくてゝふろハうげゆるゆへすりたあまいゆそおもうのてうわうらひぢん丸のろこのをとうぞへうれなうへそゝんをうろうげにちでうのをおんしもせうれもしひさうしをあれし母とをたちのうしむあれあうりろうるのどもあうりそれよりくうんとくうもてくつぞくそるうのあうべをさのうちそうらのもあそをうしうものうめのゆゑうをおんかをこのうやひとつせおまうりかめのこうかとかく一ぞうゝうちの館にハつきあひぢゆうたるさらハうゑんゆてそのくあんもこゝろ侍者がまうるぞ中ちゝゆくうくれまゝ一ゆでぞろうどがきさうのまゝいひさとうしらへじん丸のおれさちをとろのろへし上田主馬きさんあうしせうれ大吉がさうのえ一たうるとうつかりつかりまろうのはくぼた一りと見うた一つのうちもあうびゆうのあるにしれもまとりあうのうれおやかんけり　次へつゞく

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

仙方延寿丹

一包代 百文より 三百文迄 銀三拾五匁

諸虚百損をおぎなふ良薬也

[illegible]

本町二丁目 式亭三馬店

[illegible]

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808
ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

當る酉のとし新版稗史目録

繪入讀本 三冊 客者評判記 残編 式亭三馬作 三冊 歌川國貞画

繪入讀本 忠臣藏偏癡氣論 全一冊 式亭三馬作 歌川國直画

鬚の意久地 鬚の無体 名總角田個助六 全六冊 同作 歌川國貞画

関東小六 津國勝山 丹前風呂昔繪容 全六冊 同作 歌川國直画

赤本再興〇桃太郎 全三冊 同補 歌川國丸画

赤本再興〇花咲爺 全三冊 同補 歌川國丸画

盤茶 恩澤 江戸水福譚 全三冊 同作 歌川國直画

[illegible] 書林 江戸田所町 鶴屋金助版

文化九壬申年新板稗史目録

團七黒茶碗 釣舟之花入 朝茶湯一寸口切 全六冊 山東京傳作 歌川豊國画

赤本傳來 壽五百八十七曲 全三冊 櫻川慈悲成作 歌川國満画

玉屋新兵衛 出村新兵衛 先讀見國小女郎 全六冊 山東京山作 歌川國貞画

細蟹の小糸 井戸屋左七 那須野射干 全五冊 三馬門人 古今亭三鳥作 歌川國次画

鳴神五郎兵衛 三浦屋玉菊 雷神九劍電 全三冊 三馬門人 春亭三暁作 小川美丸画

繪入讀本

隅田川の千代本名附の恋 玉川の文繍の花 昔模様梅若松 全二冊 談洲樓焉馬作 歌川國貞画

有情非情 彼此撰取 大千世界樂屋操 初編 全三冊 式亭三馬作 歌川國貞画

串戲教諭 六わさ諸後編 全二冊 十返舎一九作 墨亭月宮画

右のそうし書物ありかつほか 別紙のとも同様あり

書物並錦繪草紙問屋 江戸田所町 つるや金助板

207
808

国立国会図書館 定紋花輪ちがひ 3巻 207-808
ガラス使用

207
808

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用

国立国会図書館　定紋花輪ちがひ 3巻 207-808

ガラス使用